

地図表示の 基本を再チェック

パソコンやスマホで使える地図アプリの定番「Googleマップ」。今や単に地図を表示するだけでなく、地理に関連した多彩な情報を処理できる便利なツールに進化している。基本的な使い方から最新の活用法まで順に紹介していこう。

岡村 秀昭=ライター

Googleマップは地図を中心とした情報源



図1 Googleマップは今や、ある場所の地図やルートを調べてさまざまな形で表示だけでなく、特定地域の店舗や旅行に関する情報を得たり記録を残したりできるツールに発展してきている

●Googleマップの基本画面



図2 左上にメニューと検索の機能が、右下に地図の操作や現地情報の表示機能が、左下に航空写真と地図の切り替え機能がある

イラスト：森 マサコ

20年ほど前まではパッケージを買って使うのが普通だった地図ソフトは、ネットの普及でいつしかWebアプリとして無料で使えるのが当たり前になった。今では、どこかに出かけるとき、どこかについて調べるときに不可欠なツールとして広く定着している。

中でも「Googleマップ」は、米グーグルが日々蓄積する膨大なデータとも結び付いて、さらに便利なツールへと進化を遂げてきている(図1)。検索窓や拡大/縮小ボタンといった画面の基本構成は大

※記事中で紹介している表記は記事執筆時点のものです。
例えば、利用環境によっては「航空写真」が「Earth」と表示される場合があります。

●市区町村を検索→エリアと情報を表示

大きく変わっていないが(図2)、実は数カ月単位で新機能が追加され続けているのだ。まず今回は、地図上にウィンドウやアイコンの形で表示される豊富な情報に注目しよう。

拡大で次々現れるアイコン

例えば「渋谷区」や「渋谷」で検索すると、東京都渋谷区の区域が赤く表示されるとともに、サイドパネルが開いて写真や概要が表示される(図3)。ちなみに、地図上の検索結果を消すなら検索窓右端の「×」、サイドパネルが邪魔なら検索窓の右隣の「◀」で隠せる。

また、地図を拡大すると店舗や施設を表すアイコンが次々と現れ、アイコンにマウスポインターを合わせると名称やクチコミ評価のウィンドウが開く(図4)。さらに拡大していくと、かなり小さな店まで表示できたり(図5)、ビル内部はフロアごとに詳細が表示できたりすることに驚くだろう(図6)。

Google マップは、このように地図に埋



図3 住所や施設名で検索すると地図をピンポイントで表示できるが、行政単位で検索するとエリアと(1)(2)、その地域に関する情報を表示できる(3)

●拡大で店舗表示→マウス選択でクチコミも

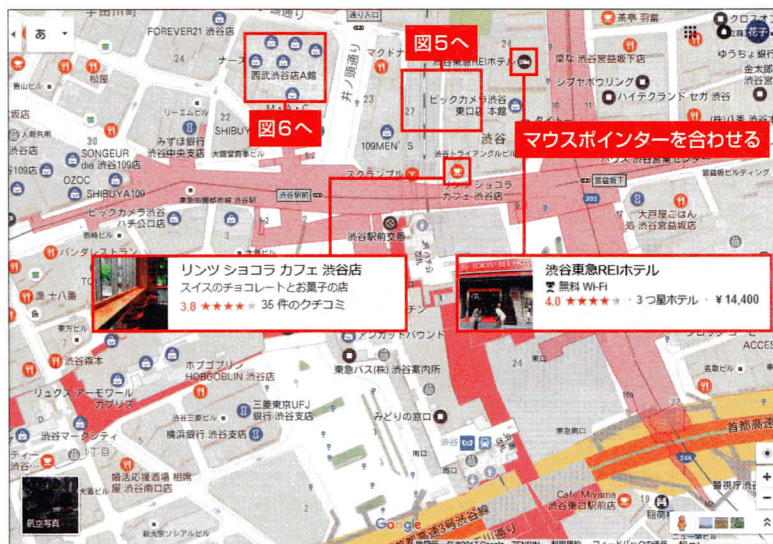


図4 地図を拡大するにつれ、店舗や施設などのアイコンが現れる。各アイコンにマウスポインターを合わせると、店舗名やクチコミ評価が表示される

●さらに拡大→横丁の小さな店舗や、百貨店内部の売り場まで表示可能



図5 地図を大きく拡大すると、飲み屋街の小さな店まで表示できる場合もある



図6 ビルのアイコンをクリックすると(1)、フロアの階数を選んで店内の売り場まで表示できる場合がある(2)

●店舗や施設をクリック→詳細情報表示



図7 店舗などのアイコンをクリックすると(1)、詳細な情報が表示され(2)、スクロールすると時間帯別の混雑度なども分かる(3)

●周辺検索→リスト選択から外部サイトも



図8 調べたい場所をクリックで選択し(1)、サイドパネルで「付近を検索」をクリック(2)。検索窓に店舗のカテゴリが表示されたら、調べたいものを選択する(3)。検索結果のリストから詳しく見たい店を選ぶ(4)(5)



図9 店舗の情報が表示され(1)、地図上で位置が表示される(2)。写真をクリックすると(3)その店舗の写真が表示され、「ページを表示」を選ぶと(4)、「食べログ」など関連するサイトを開くこともできる

め込まれた豊富な情報が魅力の一つ。しかも、現地を訪れたユーザーが情報の追加や修正をしてくれるため、最新情報が得やすい。店舗や施設をもっと詳しく知りたければ、アイコンをクリックするだけで営業時間や混雑状況、クチコミ評価やコメントまで読める(図7)。

周辺の店や施設の検索も簡単

サイドパネルには「付近を検索」というアイコンも登場している(図8)。選択した地点の周辺にある店や施設を「レストラン」「ホテル」「バーとパブ」の категорияから選んで探すことができる。カテゴリの代わりに、検索窓に「コンビニ」や「駐車場」などと直接入力し、周辺検索することも可能。この機能を使えば、初めて行く場所でも事前に詳しく調べられて心強い。

サイドパネルの写真をクリックすると関連する写真が大きく表示され、さらに「ページを表示」をクリックすると、写真の基になったWebページを開くこともできる(図9)。Googleマップ以外の力も借りて、より詳細な情報を入手できるわけ

●メニューの表示切り替えも活用しよう

だ。しかも、これらの機能は都市部や日本国内に限らず、ほぼ同じ形で世界各地の情報を得られるので、出張先や旅行先での計画を立てる際にも役立つ。

目的別に地図表示を切り替え

以上、地図上に盛られた情報の引き出し方を見てきたところで、メニューによる地図表示の切り替え手順も確認しておこう。検索窓の左にある三本線のアイコンから開いたメニューで、道路の渋滞情報や鉄道路線図、地形の起伏などを地図に重ねて表示できる(図10~図12)。各表示は、同じメニューを選べば消すことができる。自転車に適した道路を表示する「自転車」メニューは日本国内ではまだ選べない。

航空写真への切り替えはメニューを選ぶほか、地図の左下にあるボタンをクリックしてもよい。「航空写真」を選択すると表示される「ラベルを表示」をクリックして「ラベルを非表示」に変えると、地図上の文字が消えて航空写真だけの表示になる(図13)。使用目的に応じて、自在に切り替えて使いこなしたい。

●航空写真は、ラベルの表示と非表示が切り替え可能

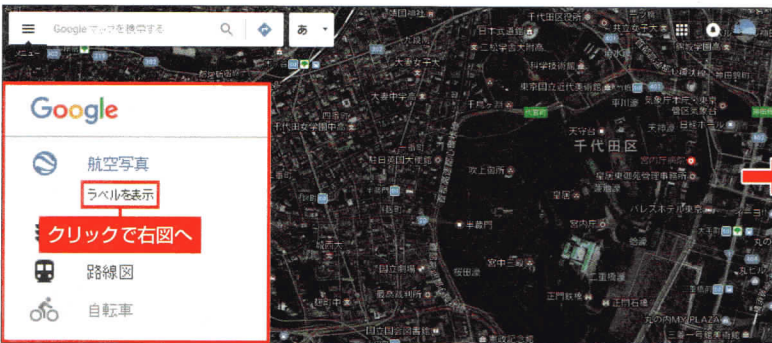


図13 メニューで「航空写真」を選ぶが、地図画面左下のボタンをクリックすると、航空写真に切り替わる。「ラベルを表示」を選んで「非表示」にすると、地図の中の文字が消える



クリックで通常の地図に戻る



図10 左上隅の「三」でメニューが開き(1)、「交通状況」を選ぶと渋滞情報が表示される(2)



図11 メニューで「路線図」を選ぶと都市部の地下鉄を含む鉄道の路線が分かりやすく表示される。駅にマウスポインターを合わせると(1)、その駅に乗り入れている路線名などが分かる(2)



図12 メニューで「地形」を選ぶと、地図に陰影が現れて土地の起伏が分かる

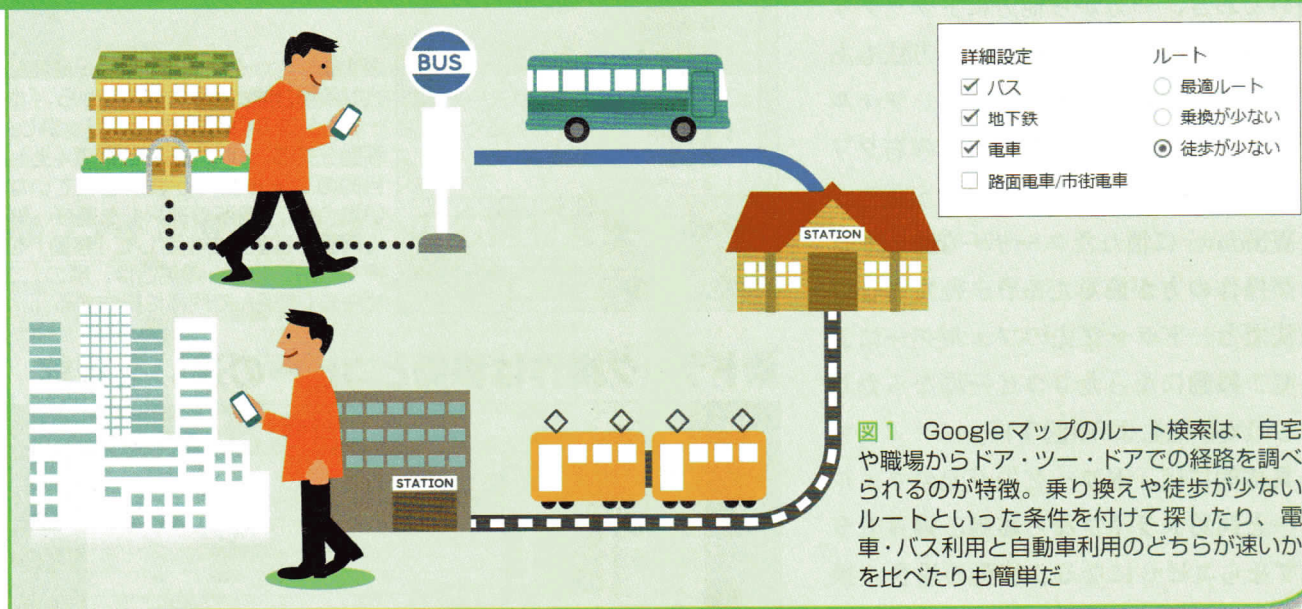
出発に帰宅に

ルート検索を使いこなす

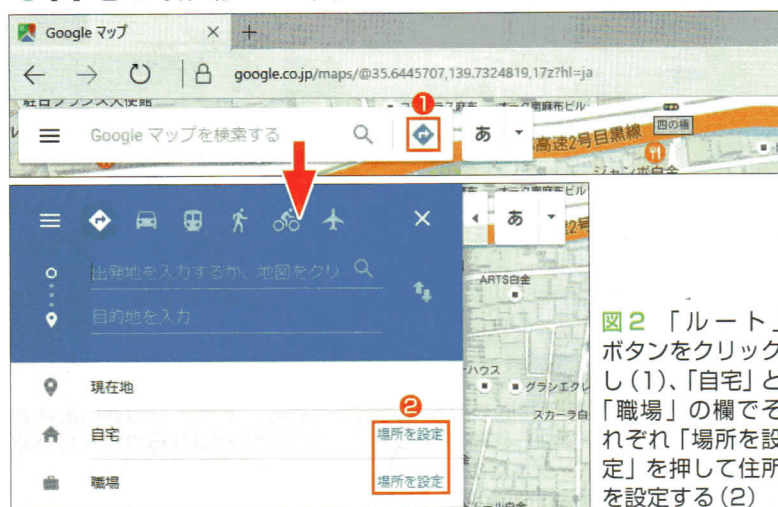
Googleマップの大きな用途である、ある場所への行き方を調べる操作をおさらいしよう。電車やバスなどの時刻も含めて検索でき、出先から自宅に帰れる最終電車を調べたり、調べたルートをスマホに送信したりも可能だ。

岡村 秀昭=ライター

自宅から目的地までドア・ツー・ドアにルート検索



●自宅と職場の登録がポイント



今回は、主に電車やバスといった公共交通機関を利用したルート検索について、その基本操作から応用ワザまで見ていこう。Googleマップは道路地図のイメージが強いが、電車やバスの時刻を含めた検索ができる(図1)。駅や停留所の間だけでなく、自宅から駅、駅から目的地といった徒歩部分も含めて全体のルートを探せるのが大きなメリットだ。

具体的なルート検索の操作を見ていく前に、「自宅」と「職場」の住所登録がまだなら先に済ませておこう。Googleアカ

イラスト: 森 マサコ

●「出発地」と「目的地」を指定してルート検索

アカウントにログインして、「ルート」ボタンでルート検索のパネルを開き、各欄の「場所を指定」をそれぞれクリックして住所を入力後に保存する(図2)。

「比較ツール」も活用しよう

それでは検索の例として、自宅から野球場に出かける行き方を調べてみよう。検索パネルを開いて出発地に「自宅」を設定し、目的地の欄で検索をして、検索結果から目的地を選ぶ(図3)。

するとルートの候補が合計3つ表示され、各候補を選択すると地図上の該当するルートに色が付く(図4)。このように、自動車利用と公共交通機関を使った場合の両方のルートが表示されるのもGoogleマップの特徴の一つだ。

ルートの候補をもう一度クリックするか「詳細」をクリックすると、乗り換え地点ごとの詳しい情報が分かる(図5)。さらに、公共交通機関を使ったルートの場合には「ルート比較ツール」をクリックしてみよう。電車やバスの乗り換え時刻も含む複数パターンが表示できる。

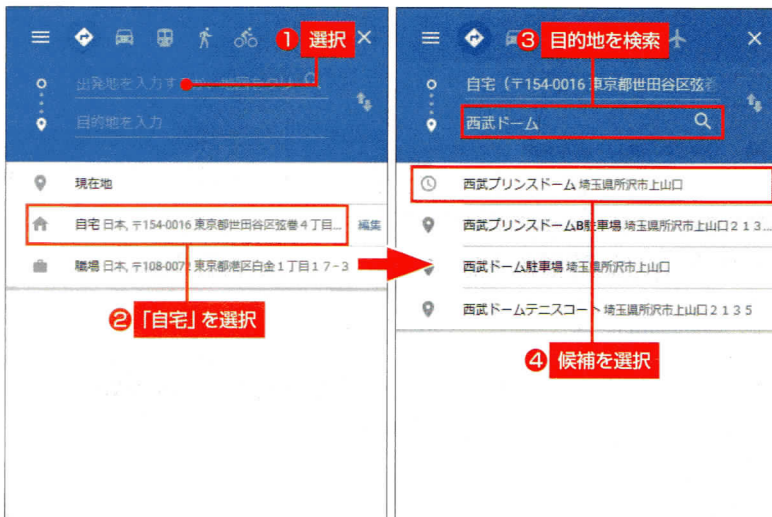


図3 出発地と目的地をそれぞれ指定する(1)~(4)。自宅や職場を登録しておく、ここで素早く選べて便利だ



図4 出発地と目的地の両方が指定できると、ルートの候補が表示される。利用手段を問わず表示され、候補を選ぶと地図にルートが表示される

●公共交通機関は、複数パターンを細かく比較できる



図5 公共交通機関のルートで「ルート比較ツール」を選ぶと(左)、利用路線ごとのルートパターンを表示できる(右)。上部のメニューで出発や到着の時刻指定や、なるべく歩きが少ないといった経路オプションも設定可能(上)

Googleマップを使いこなす

● 検索ルートをスマホやタブレットへ転送

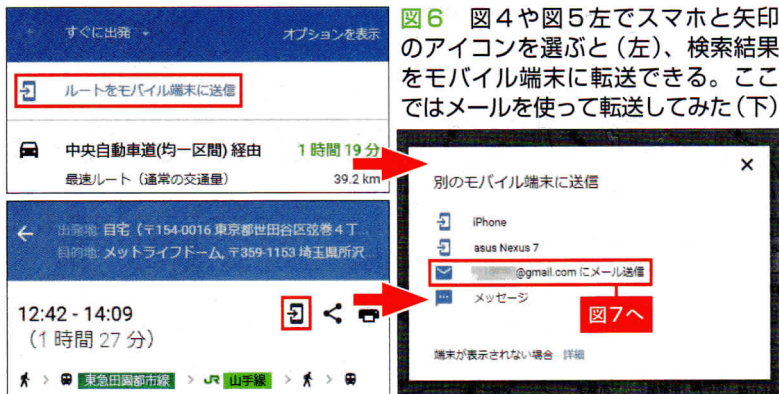


図6 図4や図5左でスマホと矢印のアイコンを選ぶと(左)、検索結果をモバイル端末に転送できる。ここではメールを使って転送してみた(下)

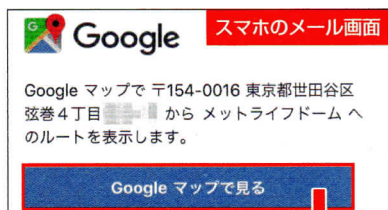


図7 スマホに着信したメールを開き「Googleマップで見る」をタップすると(左)、Googleマップが起動してルートが表示される*。利用手段の切り替えも可能(下)



ルート比較ツールでは、今すぐに出発する検索以外に、出発時刻や到着時刻を定めて検索したり、ルートのオプションとして乗り換えが少ないルートや、途中で歩く時間が少ないルートなどを探することも可能だ。

検索したルートをスマホで見る

パソコンで検索したルートは、スマホやタブレットで改めて検索しなくても、ルート情報を転送して見るができる。「ルートをモバイル端末に送信」や、そのアイコンをクリックし、開いた画面で転送先の端末を選べばよい(図6)。

メールを使った場合、端末に着信したメールを開いてボタンをタップすれば、Googleマップが起動してルートが表示される(図7)。iOS端末の場合はボタンのタップ後に「Chrome」を選ぶ。

ルートを検索した画面で外出先からの終電を調べることもできる。検索後の画面で公共交通機関を選び、「すぐに出発」を「終電」に変更すればよい(図8)。

● 出発や到着時刻を指定した検索や、終電のルート検索も可能

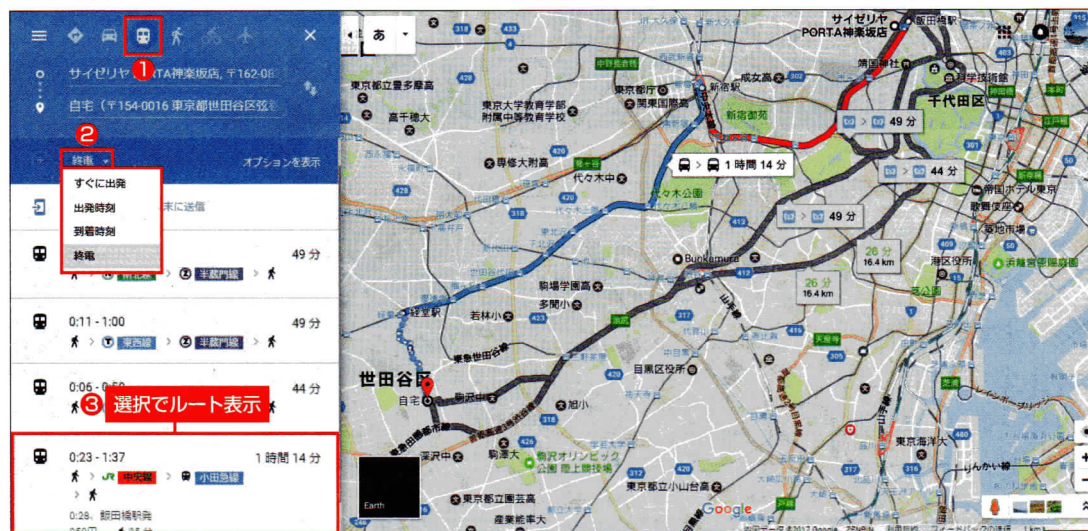


図8 ルート検索の結果画面で公共交通機関を選び(1)、メニューを切り替えれば(2)、出発時間や到着時間を指定した検索や終電の検索もできる。終電のルートで最も遅く出発できるルートを表示させた例

* iOS端末では、Webブラウザ-選択画面でChromeを選ぶとスムーズにマップが開く

●iPhone版に自宅へのナビ欄が登場

Googleマップは徒歩を含めて検索をするため、気づかなかった意外な終電ルートが表示されることもあって面白い。

スマホで帰宅時間がすぐ分かる

iOS版のGoogleマップでは最近、自宅などへの新しいナビ欄が画面下部に表示されるようになった(図9)。現在地から自宅や職場への時間やルートが、簡単に確認できる。自分で好きな目的地を設定することもできる(図10)。習い事の場所など、よく行く場所を登録しておくとう便利そうだ。

Android版のGoogleマップでは今のところ同様の機能はないが、自宅に帰るルートを検索するアイコンを作ることができる。ルート検索を実行した後にメニューから「ホーム画面に経路を追加」を選べば、ホーム画面上にアイコンが現れる(図11)。これをタップすれば、その時間の自宅までのルート検索結果をすぐに表示できるようになる。



図9 iPhone版のGoogleマップを起動すると、画面下部に自宅と職場までの時間が表示されるようになった(左)。利用手段の変更も可能(右)



図10 ナビ欄の右上隅にある「:」で開くメニューで「ショートカットを編集」を選べると(左)、自分の好きな場所を登録できる(右)

●Androidはホーム画面にルート検索のショートカットを置ける

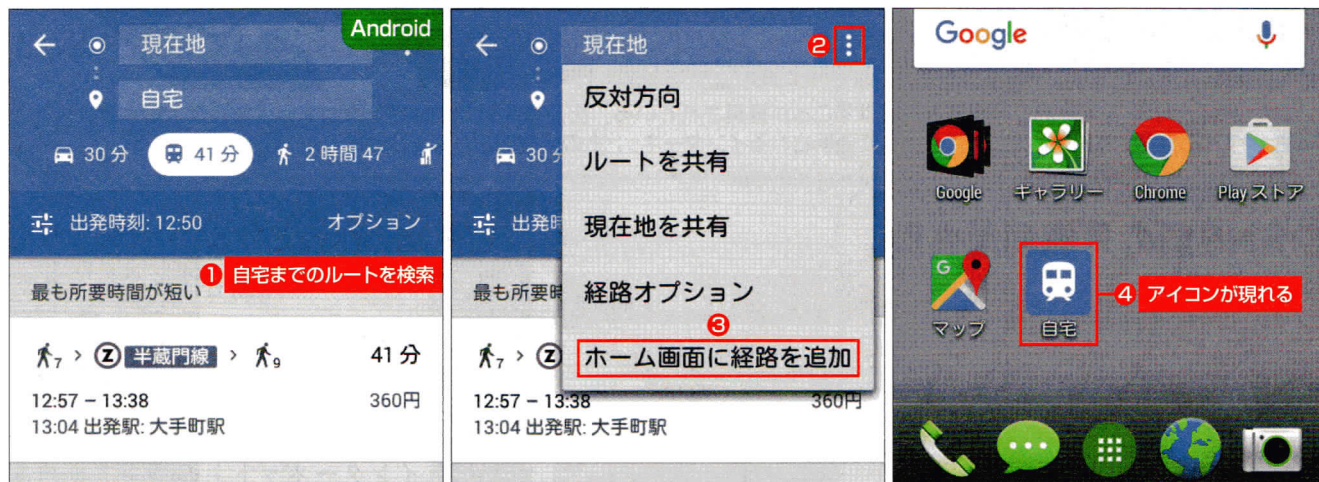


図11 Android版では、現在地から自宅へルート検索した後(1)、「:」でメニューを開いて(2)「ホーム画面に経路を追加」を選べば(3)、自宅へのルート検索ができるアイコンが作成できる(4)

現在地を共有して 楽々待ち合わせ

今年3月にお目見えしたばかりの現在地の共有機能を使ってみよう。共有を許可した相手のスマホに、自分の現在位置がリアルタイムに表示される機能だ。また、現在地ではなく手動で指定した位置をパソコンから知らせる手順も紹介しよう。

岡村 秀昭=ライター

相手のマップ上に自分の現在地を表示できる新機能が登場



図1 自分のいる位置を文字や声で伝えるのはとても難しい。初めて行く場所のときは、なおさらだ。だが、スマホ版のGoogleマップアプリで現在地の共有機能を使えば、お互いの位置をマップ上に表示できる。待ち合わせなどに威力を発揮しそうだ

●メニューを開いて共有機能を設定する



図2 スマホのGoogleマップアプリの検索ボックス左側にある横三本線のメニューを開き「現在地を共有」をタップする。iPhoneとAndroid端末とでメニューなどの表示がやや異なるが、操作の流れはほぼ同じだ

イラスト：森 マサコ

前回までに、地図の情報検索とルート検索という2大機能の基本操作を確認した。ここからは、最近になって登場した新しい機能を見ていこう。まず、自分のいる位置をリアルタイムで他人に知らせることができる機能だ(図1)。

現在地の共有と呼ばれるこの機能を使うには、メニューを開いて「現在地を共有」を選択する(図2)。ただし、自分の位置を送信できるのはスマホなどのモバイル端末版のGoogleマップアプリだけ。パソコン版のGoogleマップでは、モバイ

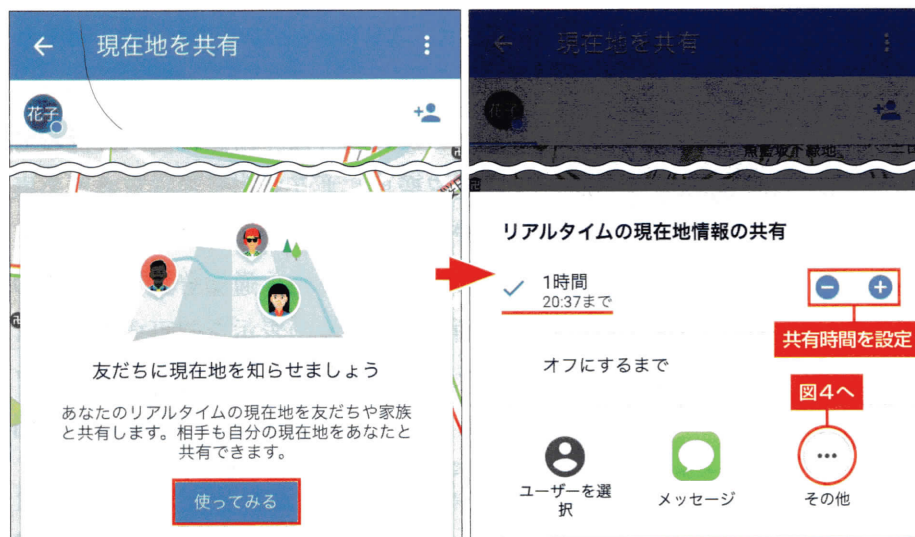


図3 「試してみる」をタップ(左)。「+」「-」のボタンで位置共有を許可する時間を設定し、共有の通知手段を選ぶ(右)。表示されていない手段で知らせるなら「その他」をタップ

ル版マップから通知された位置を表示することはできるが、自分から現在地を知らせることはできない。

時間制限付きで位置を知らせる

自分の位置を知らせたい相手に現在地の共有を許可すると、相手のGoogleマップに自分の位置がリアルタイムで表示されるようになる。プライバシーに配慮して、基本的には時間を限定して位置共有を許可するようになっている。共有時間は既定で1時間。最大で3日間まで設定できる(図3)。このほか、機能を切るまで無期限で共有する設定も可能だ。

位置共有の通知先は、相手がGoogleアカウントを持っていて、こちらの連絡先に登録されていれば「ユーザーを選択」で指定でき、相手は位置をマップアプリ上で表示できる。そうでなければ、位置共有のリンクをメールやLINEなどで送信する(図4、図5)。こちらはWebブラウザ上にGoogleマップが開き、自分の位置が表示される。誌面ではメールで通知する例を紹介した。

スマホが位置情報を公開する設定にな



図5 次の画面で「オンにする」をタップして共有機能をオンにした後(左)、選んだ手段で共有を通知したい相手に知らせる(右)



図4 スマホメールやLINEなど、表示された中から位置共有の通知手段を選ぶ。ここでは「Gmail」を選んだ。上図はiPhoneの画面例



● スマホの位置情報サービスはオンに

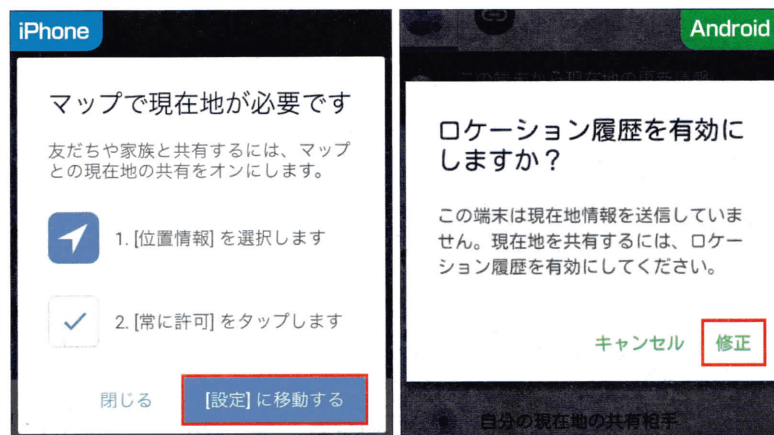


図6 スマホで、位置共有に必要な位置情報サービスなどがオフになっている場合は、画面の指示に従ってオンにする。左はiPhone、右はAndroidの例

●受信者がマップを開くと送信者の位置を表示



図7 共有の通知を受け取った相手は、「Google マップで表示」や通知されたURLをタップしてマップを開く(左)。Webブラウザは「Chrome」の方がスムーズに開くことが多い(右)



図8 Googleマップが開くと送信者の位置がラベル付きで表示される(左)。「:」のメニューで位置の更新などが可能(上)。右下のスイッチをオンにすると、送信者側も受信者の位置を表示可能になる(左)

●受信者が許可すれば送信者側も表示できる

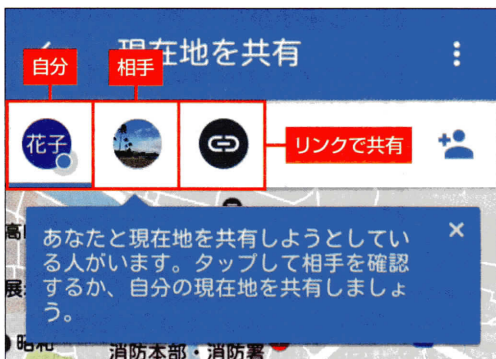


図9 図3で開いた「現在地を共有」の画面では、上部の丸いアイコンで各ユーザーの状態を表示できる。鎖のアイコンでは、自分の位置が共有可能なリンクを表示できる

っていない場合は、画面の表示に従って設定を変更しよう(図6)。設定変更の操作や手順は、機種や条件によって異なる場合がある。また、通知を送信した後の画面で「現在地の表示を許可する」のスイッチはオンのままにしておこう。オフにしてしまうと、せっかく通知しても相手が位置を表示できない。

Webブラウザ上の地図は手動で

メールなどで共有の通知を受け取った相手が「Googleマップで表示」をタップすると(図7)、Googleマップが開いて通知を送信した人の位置が表示される(図8)。iOS端末でWebブラウザを選ぶ画面が開いたら、Chromeを選んだ方がスムーズに表示できる場合が多い。Chromeをインストールしていなければ、その場でインストールできる。

マップアプリではなくWebブラウザ上で地図を表示している場合は、送信者が動いても位置を更新できないので、適宜「:」メニューから「更新」を選んで地図表示を更新しよう。

受信者も位置共有を許可した場合は、送信者側にも受信者の位置が表示される。位置の共有中は、現在地の共有画面の上部に共有相手のアイコンが表示され、タップすると共有機能を管理できる(図9)。

なお、Googleマップが表示する位置の精度はGPSやWi-Fiの位置情報を利用してかなり高いが、駅周辺の地下街をはじめとして誤差が大きくなる場合もある。待ち合わせで利用するなら位置情報を過信せず、通話などほかの手段も組み合わせ合わせた方が確実だろう。

●パソコンのマップで地図上の位置を知らせる

Googleマップでは、今回紹介したリアルタイムで位置を自動共有する使い方のほかに、クリックで指定した位置を他人に知らせる方法もある。こちらはパソコン版Googleマップからも利用できる。待ち合わせ場所を地図で知らせたいときに便利に使える。

地図上の位置を手動で知らせる

操作手順は、地図上で知らせたい位置をクリックし、ピンの形をしたグレーの小さなアイコンが現れて画面の下部にその地点を示すウィンドウが開いたら、緯度経度の部分をクリックする(図10)。緯度経度のウィンドウが現れない場合は、同じ場所を再度クリックしよう。

サイドパネルが開いたら「共有」をクリックし(図11)、位置を示すURLの画面で[Ctrl] + [C]キーを押してコピーする(図12)。短縮URLはチェックを入れた方がURLが短くて扱いやすい。

メールやLINEの送信画面に[Ctrl] + [V]キーでURLを貼り付けて送れば、受信者は地図を表示できる(図13)。



図10 パソコンのGoogleマップで、知らせたい位置をクリックし(1)、グレーの小さなピンアイコンが表示されたら、画面の下に現れたウィンドウの緯度経度をクリックする(2)



図11 クリックした位置に赤いピンが立って、その点についてサイドパネルが開くので、「共有」をクリックする

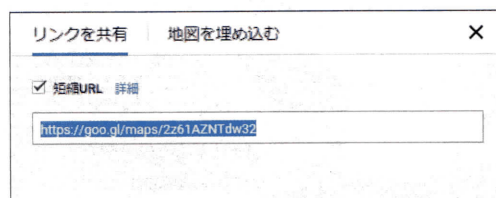


図12 表示された画面で短縮URLにチェックし、[Ctrl] + [C]キーを押してコピー。メールやLINEの送信画面に[Ctrl] + [V]キーで貼り付けて送信する

●受信者側では赤いピンが立ったマップが開き、指定した位置が分かる

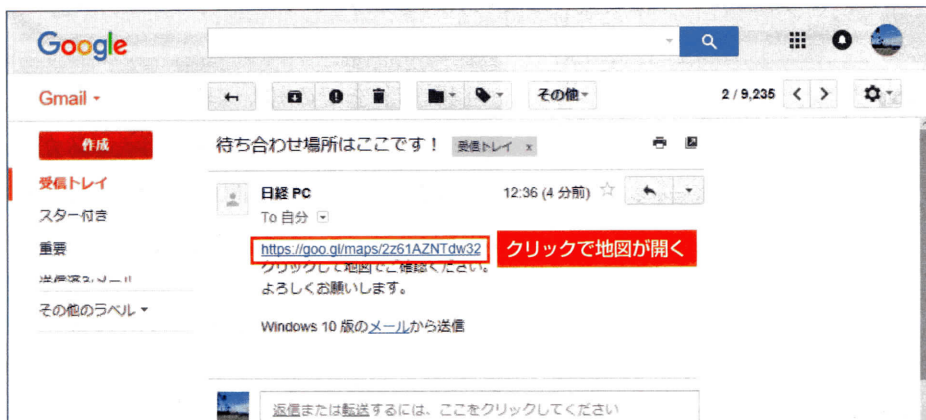


図13 送られたメールを開いてURLをクリックすれば(上)、パソコンでもスマホでも地図を開いて位置を確認できる。指定した位置には赤いピンが立って表示される(右)



Googleマップを使いこなす

旅の予約を素早くこなす

ホテルや航空券など

今回はGoogleマップから宿泊施設や交通機関の予約をしてみよう。希望する日の料金を見ながら地図上でホテルを探し、利用できる飛行機のフライト時間を検索。予約サイトや価格比較サイトなどに飛んで予約ができる。

岡村 秀昭=ライター

検索結果の画面から予約サイトへ直接飛べる



図1 Googleマップと情報連携しているホテルなら宿泊希望日の状況がすぐに分かり、そのままホテル予約サイトを開いて予約できる。航空券は、リンクから「Googleフライト」へ移ると搭乗日のフライトを表示でき、便を選んで予約が可能

● 訪問先を調べてホテルを探す

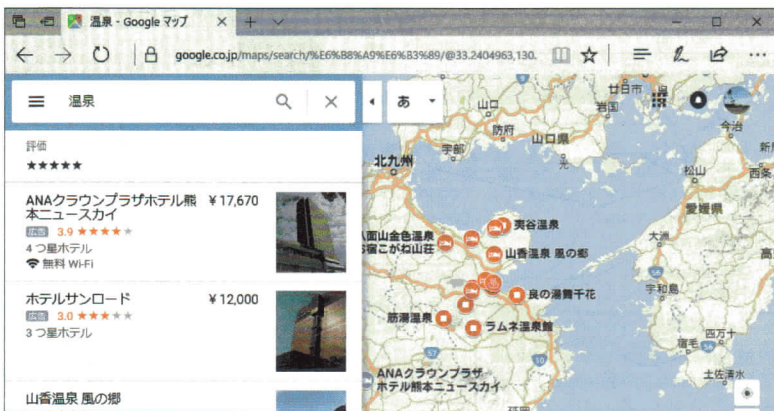


図2 ここでは温泉旅行を計画してみよう。地図を訪れたい地域を開いて「温泉」で検索。地図を拡大してさまざまな情報をチェックしながら、宿泊先の候補を絞っていく

イラスト：森 マサコ

Googleマップは旅行の計画を立てる際に、とても役立つ。訪問先の最新情報を調べられるのに加えて、予約サイトなどと連携した宿泊先の手配や交通機関のチケット予約も可能だからだ(図1)。

早速、温泉旅行を例に宿泊予約から試してみよう。まず、訪問したい地域の地図を表示させる。今回は「おんせん県」を名乗る大分県付近を表示させた。宿泊場所は「ホテル」や「旅館」といった語で検索できるが、今回は温泉宿を探すために「温泉」で検索した(図2)。

●料金や評判をチェックしてホテルを絞り込み、予約サイトへ



図3 地図を拡大しつつ好みの地域へ移動してホテルを探す(1)。日付部分をクリックして条件設定欄を開く(2)



図4 地図上の主なホテルには宿泊料金が表示され、◀▶をクリックしてチェックイン日を変更すると料金も変わる(1)(2)

サイドパネルの検索結果に一覧表示された場所は、地図では赤いアイコンで表示される。地図を移動したり拡大したりすると検索結果も逐次書き換わり、検索結果のホテルや地図上のアイコンを選択すると詳細情報が表示される。評価の星やクチコミなども参考にしながら、宿泊先の候補を絞り込んでいくとよい。

指定日の宿泊料金が地図上に

「宿泊期間」の日付部分をクリックすると条件設定欄が開くので、旅行の希望日を「チェックイン」の欄に設定しよう(図3、図4)。少し先の日付を設定したいときは、日付部分をクリックすれば小さな月間カレンダーが開いて設定しやすい。これで主なホテルの当日の宿泊料金が、サイドパネルや地図上に現れる。

曜日などによって変わる宿泊料金が簡単に分かるので、スケジュールとの兼ね合いで最適な日程を検討しやすい。「評価」の星の部分をクリックして、星の数でホテルを絞り込むことも可能だ。

宿泊予約は、サイドパネルに表示されたリンクから予約サイトを開けば実行できる(図5、図6)。予約サイトで、さらに類似のホテルと比較検討することもできるので、じっくり考えてから予約する



図5 予約したいホテルが見つかったら選択し(1)、予約サイトを選んでリンクをクリックする(2)。料金などが表示されないホテルは、ホテルのサイトを直接開いて情報を確認しよう



図6 ここでは「Agoda.com」という予約サイトを開いてみた。希望のホテルを選択して予約画面に進める。地図上に複数のホテル情報を表示して比べたり、条件を変更して選択し直したりも可能だ

Googleマップを使おう

●自宅からホテルへのルートを検索



図7 ホテルが決まったら自宅からの行き方を調べよう。ホテルを選択した状態で「ルート検索」ボタンをクリック(1)。ホテルが目的地に設定されたのを確認し、「自宅」を選んで出発地に設定する(2)



図8 この検索例では自動車を使うルートと、飛行機を使ったルートが表示された。飛行機を使ったルートを選ぶ場合は「Google フライトの検索結果を見る」をクリック

●Googleフライトへ移り、便を選んで予約



図9 「Googleフライト」アプリが開くので、搭乗日などの条件を設定し、表示されたフライトから好みのものを選択する

とよいだろう。

なお、Googleマップとホテルの情報が連携しておらず、リアルタイムの宿泊料金や空き室情報が表示されない場合は、詳細情報にあるリンクからホテルのホームページを直接開いて調べよう。予約サイトが対応していないホテルも、大概是ホームページで予約できる。

以上、国内ホテルの例を紹介したが、全く同じ手順で海外のホテルを検索して予約することもできる。海外のホテルでも予約サイトの説明は日本語なので操作しやすい。

航空チケットは「フライト」で

ホテルを決めたら、自宅からの移動手段を検索して、交通チケットを予約してみよう。サイドパネルにホテルの詳細情報が表示された状態でルート検索のボタンをクリックし、続いて出発地に「自宅」を設定する(図7)。

誌面の例では、高速道路を使った自動車のルートが2つ、飛行機を利用するルートが1つ表示された(図8)。飛行機のルートを選択した場合は「Googleフライト」というアプリへのリンクが表示されるので、クリックして開こう。

Googleフライトでは、お薦めフライトが一覧表示されるので、往路と復路の便を順に選ぶ(図9)。Googleマップで指定したホテルのチェックイン日は出発日として引き継がれないので、改めて設定しよう。日付部分をクリックすると月間カレンダーが表示され、日ごとの最安値を一覧することもできる(図10)。

乗りたい便を選択すると、その航空会



図10 出発日の日付をクリックするとカレンダーが開き、日ごとの最低運賃(この例では往復運賃)が一覧できる



図11 ANAの便を選んで同社サイトを開いた例。ここで、より細かくフライトと料金を選んで予約へ進む

社のサイトが開くので、画面の指示に従って操作を進めて予約する(図11)。なお、東京や大阪など複数の空港が使える都市の場合、選択した便が発着する空港が最初にルート検索した結果と合っていないことがある。必要なら空港までのルートを変更して検索しよう。

●鉄道利用なら各社リンクから予約サイトへ



図12 鉄道利用に切り替えて(1)、うまく検索できなければ目的地を最寄り駅に設定(2)。出発日時などを改めて設定して検索する(3)。ルートを選択したら(4)、ルート詳細画面をスクロールして鉄道会社などのリンクを選ぶ

鉄道や高速バスも予約できる

鉄道をメインに使いたい場合は、ルート検索の画面で「電車・バス」のアイコンをクリックする(図12上)。鉄道だけでなく、時間帯によっては高速バスを使ったルートなども検索結果に挙がってくる。

目的地が遠方の場合など、自宅からホテルまでドアツードアで正しくルート検索ができず、検索結果が表示されないこともある。そんなときは、目的地をホテルの最寄り駅に変更すると正しく検索できることが多い。

移動手段が決まって特急や高速バスなどの切符を入手したければ、運行会社のサイトで予約できる。検索結果を選んでルートの詳細画面を開き、一番下にあるリンクから開こう(図12下、図13)。切符の受取場所などをよく確認の上、予約するとよいだろう。



図13 鉄道会社やバス会社の予約サイトを開いて空席を調べたり予約したりできる。上は「JR東日本」と「JR九州」を選んだ画面例

タイムラインで 旅を自動記録

ルートも

写真も

今回は、旅行の記録に便利な「タイムライン」という機能を紹介します。記録を残せるのはスマホなどのモバイル版Googleマップアプリだが、パソコンのGoogleマップでも表示や編集ができる。

岡村 秀昭=ライター

移動ルートを記録して写真とともに表示



図1 スマホを持って移動したルートを自動的に記録し、各地で撮影した写真とともに表示できるのが「タイムライン」機能。記録は、同じGoogleアカウントでログインしたパソコンで大きく表示することもでき、旅の思い出を振り返るのについで

● スマホのロケーション履歴をオンにする



図2 スマホのマップアプリで「☰」ボタンからメニューを開き、「設定」→「個人的なコンテンツ」として「Googleフォト」をオンに(1)～(3)。「位置情報サービス」と「ロケーション履歴」も図3や図4の要領でそれぞれオンにする

イラスト：森 マサコ

旅行先で、気ままに街を歩き回ったりバスで連れ回されたりしたため、街のどこをどう回ったのか細かく思い出せないということはないだろうか。あるいは、せっかく撮影した写真も、整理せずにメモリーカードの中で眠ったままになりがちだ。

そこで活用したいのが、移動したルートを自動的に記録してくれる「タイムライン」だ(図1)。この機能はAndroid版のアプリでは2015年の夏から実装されており、この春からiPhone向けアプリでも使えるようになった。設定で、スマホの位



図3 iPhoneでは、位置情報を「常に許可」に。ロケーション履歴は2カ所をオンにする。複数端末がある場合、下は「この端末」だけをオンにしよう



図4 Androidの場合、位置情報をオンに。ロケーション履歴は2カ所をオンにする。やはり複数端末があれば、下は「この端末」だけをオンにする

置情報サービスとロケーション履歴を有効にすれば利用できる(図2~図4)。

スマホの位置履歴を有効に設定

タイムラインに写真を表示するには、「Google フォト」アプリの自動アップロード機能を有効にした上で、マップ側のフォト表示機能をオンにしておく。ちなみに、複数のスマホを使っている場合、ロケーション履歴は常に持ち歩く1台だけをオンにしよう。複数端末が違う場所にあると、両方の位置の履歴が混在してしまうためだ。

あとは、現地でスマホを忘れずに持ち歩くだけでOK。タイムラインを開いてカレンダーで当日を選べば、記録された結果を見ることができる(図5)。移動したルートのほか、しばらくとどまった場所や移動手段などが自動認識され、滞在時間とともに表示される。

地点名や移動手段などを誤認識する場合もあるが、移動の軌跡はまずまず正確に表示され、どんな1日だったのかをたどるには十分に役に立つ。写真は、撮影した場所ごとにまとめて表示され、タップすれば拡大して見ることができる。

こうしてスマホで記録した情報は、同じGoogleアカウントでログインしたパソ

●日付を選べば移動記録や写真が現れる



図5 図1左のメニューで「タイムライン」を起動してカレンダーを開き(1)、記録を見たい日を選択(2)。上の地図に当日の移動ルートが、下にルートの詳細が時系列で表示され、写真を撮った場所をタップすると写真が見られる

●同一アカウントのパソコンでも表示できる

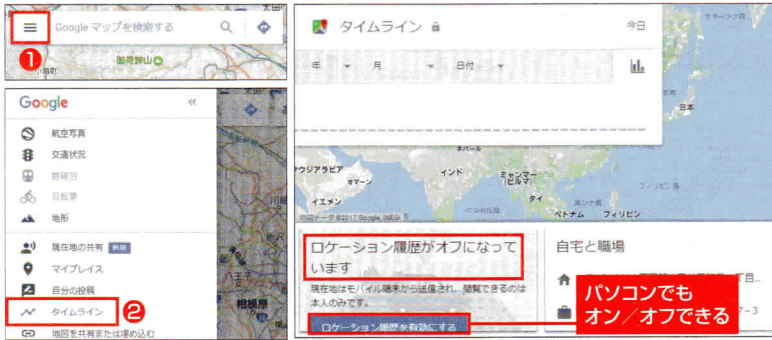


図6 パソコンのGoogleマップで見ると、メニューからタイムラインを開く(1)(2)。図3や図4のロケーション履歴は、パソコンでも設定可能だ



図7 右で設定した、Googleフォトの写真を表示する設定も、タイムライン画面の右下隅の歯車アイコンで開くメニューでオン/オフできる(1)~(4)

●過去の記録地点の分布や詳細を表示可能



図8 パソコン版のタイムラインでは、過去にとどまった場所が地図上に赤い点で表示され、左上には日ごとに記録地点の数がグラフで表示される



図9 日付の指定か棒グラフのクリックで(1)当日の移動ルートが現れる(2)。地点ごとに撮影した写真も表示される(3)。自動認識された場所が誤っていたら選択肢から選び直せる(上)

コンのGoogleマップでも表示できる。スマホより大きな画面で見やすく表示できるのでお勧めだ。タイムラインはメニューから起動でき(図6)、機能の設定はパソコン側でも変更できる(図7)。

パソコンの大画面が見やすい

パソコンのマップでタイムラインを開くと、まず過去に記録された場所の分布が縮小地図に表示される(図8)。詳細な記録を表示する日付は、左上のパネルで日付を指定するか、棒グラフを選択する(図9左)。グラフには記録された地点数が日ごとに示されており、通常の地点数は青、ユーザーによる場所の確認が求められている未確定の地点数は薄い水色でカウントされている。

自動認識された地点名は、クリックすると修正できる(図9右)。ほかのユーザーが登録した選択肢から選ぶほか、やや難易度は上がるが自分で地点を追加登録することも可能だ。移動手段や滞在時間も、クリックすれば修正できる。

あるいは、記録が不要な日を丸ごと削除したり、通過しただけなのに滞在したと誤認識された地点などを個別に削除したりもできる(図10)。可能な範囲で、

●記録は1日分や場所ごとに削除や修正可

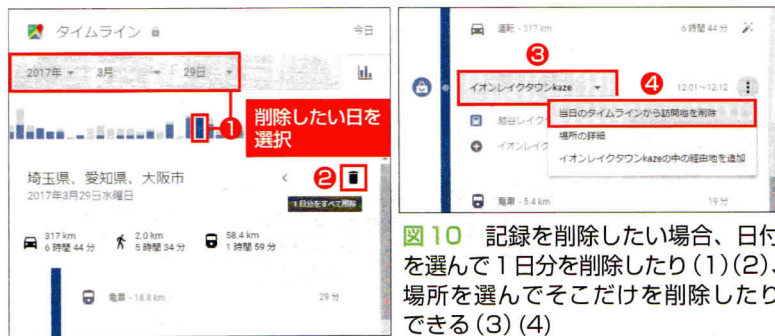


図10 記録を削除したい場合、日付を選んで1日分を削除したり(1)(2)、場所を選んでそこだけを削除したりできる(3)(4)

事実に即した旅行記録に整えることができるわけだ。

記録が不要なら機能をオフに

自分の記録を表示できるのは自分のアカウントに限られるので、日記代わりに常にロケーション履歴をオンしておく使い方も面白い。ただ、居場所が自動記録されるのに抵抗があるなら、普段は機能をオフにしておこう。画面右下のメニューで、機能を止めることができる(図11)。メニューで過去のロケーション履歴を一気に消すこともできる。ちなみに、スマホのバッテリー消費が気になる場合は、位置情報サービス自体をオフすると電力消費を抑制できる。

なお、タイムラインの表示から写真を削除することもできるが、非表示になるだけでGoogleフォトの保存された写真はそのまま残る(図12)。また、紹介してきた記録の修正は、スマホでも可能になっている(図13)。

●記録の一括削除や記録停止はメニューで

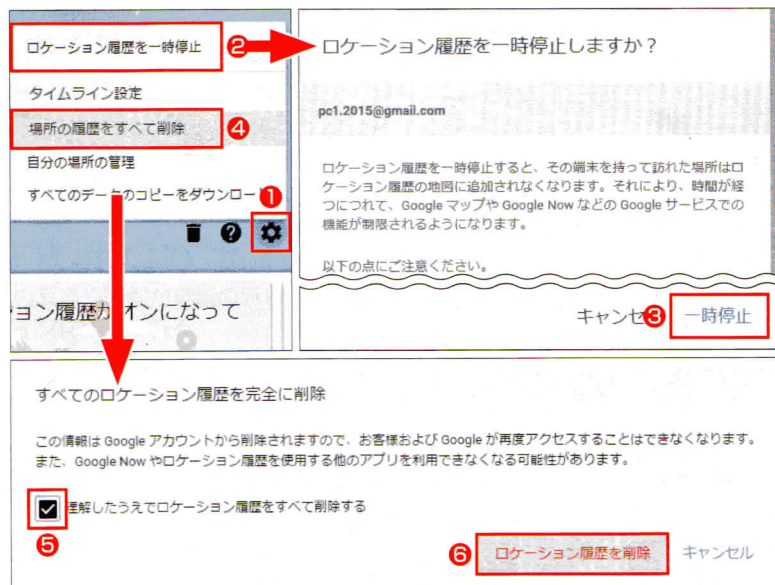


図11 旅行を終え、以降の記録を止めたければ、メニューで「ロケーション履歴を一時停止」を選ぶ(1)~(3)。過去の記録を全て消したい場合は「場所の履歴をすべて削除」を選べばよい(4)~(6)

●タイムラインから写真削除

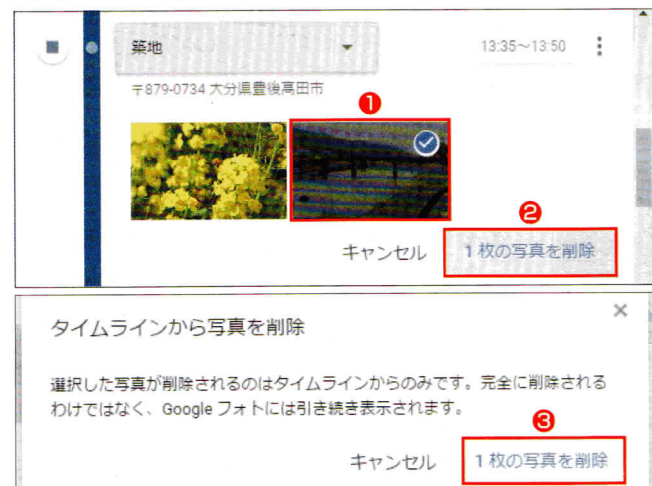


図12 タイムラインの写真も、選択して削除できる(1)(2)。タイムライン上で消えるだけでGoogleフォトの元の写真には影響しない(3)

●スマホでも1日分や場所ごとに削除



図13 記録の削除や修正などはスマホでも可能。1日分ならメニューから(1)(2)、場所ごとならタップで開いて実行する(3)~(5)

まだある

旅の前後で大活躍!

便利な新機能

Googleマップの最終回は、まだ紹介していなかった比較的新しい旅行関連の機能を3つ、駆け足で紹介しよう。ややとつきにくく感じる機能もあるかもしれないが、使ってみればどれも便利なものばかりだ。

岡村 秀昭=ライター

「マイマップ」「クチコミ投稿」「オフライン地図」を紹介



● パソコンではマイプレイスと投稿が使える



図2 「マイマップ」の登録機能はメニューの「マイプレイス」で起動、クチコミ投稿は「自分の投稿」で起動し、パソコンとスマホの両方で使える。「オフラインエリア」はスマホだけで使える

イラスト：森 マサコ

今回取り上げる3つの機能は、どれもマップ画面左上の「☰」で開くメニューから起動できる(図1)。「マイマップ」はメニューの「マイプレイス」から起動でき、以下で紹介する「スター」とともに登録した情報を「マイプレイス」の中で一括管理できる。「オフラインエリア」はスマホだけで使える機能だ(図2)。

まず、Googleマップで調べた場所に目印を付けたいとき、最も手軽に使えるの

●お気に入りの地点を登録すると、黄色いスターが付く



図3 地図に星印を付けるには、検索や場所のクリックでサイドパネルを開き(1)、「保存」をクリック(2)



図4 図3の登録地点には星印が表示される(1)。地図を縮小すると特に目立って分かりやすい。メニューで「マイプレイス」を開いて「保存済み」を選ぶと(2)、登録場所を一覧できる(3)

が「スター」だ。場所を検索するか施設のアイコンをクリックしてサイドパネルを開き「保存」を選ぶとスターが付く(図3)。大縮尺の地図では星印がやや見づらいが、地図を縮小していくとはっきり見分けられるようになる(図4)。

スターは、同じGoogleアカウントのマップではどれも同じ場所に付くので、パソコンのマップで登録したスターの場所を、外出してからスマホのマップを開いて確認するという使い方も便利だ。

マイマップで複数地点を保存

あるテーマごとに一連の場所をまとめて保存しておくのが「マイマップ」。旅行の計画時に行きたい候補地に印を付けて検討し、最終決定した場所だけ残して保存するといった使い方ができる。

マイマップは、専用の編集画面で作成する。マイプレイスを起動して「マイマップ」→「新規作成」としてマイマップ名を入力(図5)。場所を検索するか施設のアイコンをクリックして「地図に追加」を選ぶ操作を繰り返してスポットを登録していく(図6)。登録内容は自動保存されるので、作業後はそのまま「マイマップ」のタブを閉じてよい。

ルートも保存できる。「ルートを追加」の機能を使って、出発地や到着地、必要

●「マイマップ」で場所やルートをまとめて保存

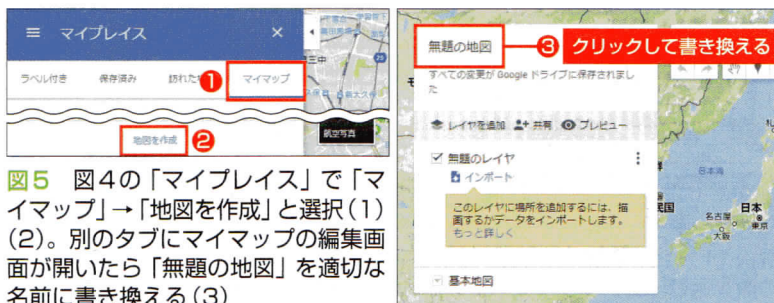


図5 図4の「マイプレイス」で「マイマップ」→「地図を作成」と選択(1)(2)。別のタブにマイマップの編集画面が開いたら「無題の地図」を適切な名前書き換える(3)



図6 場所を登録するには、地図を拡大するか検索して(1)、登録地点をクリックし(2)、「地図に追加」を選ぶ(3)。ほかの場所も同様に登録する(4)。地図の何も無い所をクリックして登録場所の選択を解除すれば作業終了(5)



図7 ルートを登録するには、「ルートを追加」ボタンから出発地と目的地(経由地)を順に選ぶ(1)～(3)。3点目以降は「目的地を追加」を押してから選ぶ(4)(5)。全ての作業を終えたら「マイマップ」タブを閉じて終了(6)

●訪れた場所のクチコミを投稿してみる



図8 クチコミを投稿するには、メニューで「自分の投稿」→「投稿する」を選択(1)(2)。過去に訪れた場所の一覧が開くので、投稿したい場所の星印の数を並び(3)、クチコミ欄が開いたら本文を入力(4)。写真も投稿するならば写真マークをクリック(5)



図9 投稿したい写真のファイルをドラッグして登録し(1)、「選択」ボタンを押した後(2)、「投稿」をクリックすれば投稿が実行される(3)



図10 過去に投稿したクチコミは、「クチコミ」タブを選べば星印の数を含めて一覧で見られる

なら経由地を指定して検索したルートを保存する(図7)。そのほかに「ラインの描画」機能を使い、自分で決めた道順で道路をクリックしてルートを引いて保存する方法もある。

スポット、ライン、ルートは、それぞれレイヤーというまとまりで管理される。不要なマイマップは「マイマップをすべて見る」でマイマップ編集画面を開き「:」→「削除」として削除しよう。

旅の思い出を投稿してみよう

旅行を終えたら、Googleマップの情報をさらに充実させるためにも、訪問地のクチコミや写真を登録してみよう。ロケーション履歴が有効なスマホを持参した場合は、訪れた場所が「自分の投稿」に投稿候補として現れるので、星印をクリックして投稿する(図8、図9)。

スマホを使わなくても、投稿したい場所のアイコンをクリックして開けば、サイドパネルの「クチコミを書く」や「写真を追加」から投稿ができる。自分で登録



図11 過去に投稿した写真は、「写真」タブを選べると一覧して見ることができる

●「オフラインエリア」の地図をダウンロード

した情報は「自分の投稿」欄で、まとめて管理できる(図10、図11)

海外でマップを安心して使う

海外に出かけて現地の通信事業者と契約してスマホを使うと、パケット料金が高額になることがある。地図データは一定の容量があるので、あらかじめ地図データをスマホにダウンロードしていくか、現地でも無料Wi-Fiの使える場所でダウンロードして使った方が安心だ。

「オフラインエリア」を起動して利用したい地域を選択し、名前を付けて保存する(図12)。慎重を期すなら、地図データの更新機能は自動から手動に設定しておくのもよいだろう(図13)。

地図を保存した地域では、電波を使わずに地図を拡大／縮小して使うことができる(図14)。ただし、ルート検索のような一部の機能は利用できない。また、オフラインエリアは国内や、海外でも一部地域は対応しないので注意しよう。



図12 スマホで「オフラインエリア」を選択(図2右)。「カスタムエリア」を選んだ後、ダウンロードしたい地域を表示させて「ダウンロード」(1)(2)。ダウンロード完了後に、タイトルを書き換える(3)～(5)

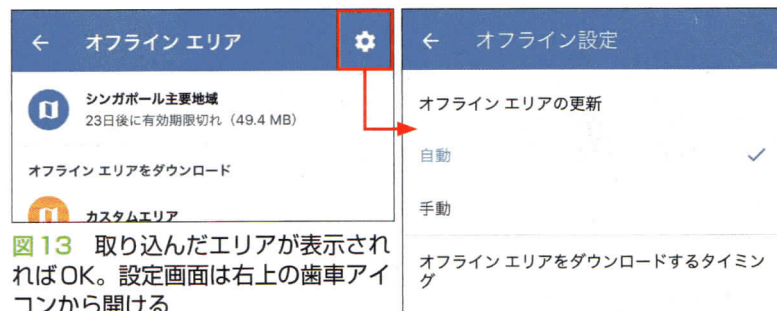


図13 取り込んだエリアが表示されればOK。設定画面は右上の歯車アイコンから開ける

●電波を使わないフライトモードでも拡大／縮小が自在



図14 地図データをスマホに取り込んだ地域は、一切通信をしないフライトモードにしても地図を拡大／縮小できる

Googleマップを使いこなす